スターフライヤー

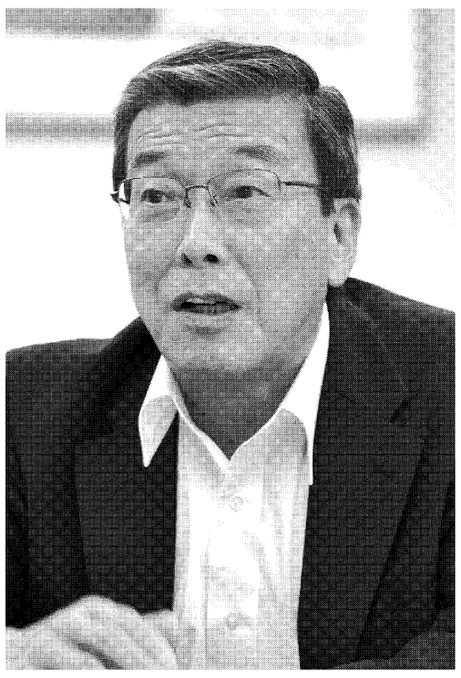
北九州―那覇線 就航
翼が広げるビジネスチャンス

地域活性、そして海外へ
経営者座談会

北九州空港を本拠地にするスターフライヤーが北九州―那覇線を初めて定期就航した。好況に沸く沖縄と、モノづくりの街から多様化しつつある北九州。直行便を契機にした両地域の人流の活発化に期待が高まる。一方で東京五輪・パラリンピック開催の2020年を視野に、観光立国へ向けた課題解決も求められる。北九州・沖縄になじみの深いキーパーソン3人が議論した。

出席者

スターフライヤー社長　松石　禎己（まついし　さだみ）氏
第一交通産業社長　田中亮一郎（たなか　りょういちろう）氏
沖縄ツーリスト会長　東　良和（ひがし　よしかず）氏
《司会》日刊工業新聞社西部支社長　嶋崎直



スターフライヤー　松石氏

【企業概要】本社・北九州市小倉南区、2002年設立。北九州空港を拠点に羽田、中部などを結ぶほか、福岡―羽田線など国内6路線62便を運航。航空機では珍しい黒い機体で、上質な機内空間、サービスを提供している。

通年運航・複便化目指し、地元に魅力伝える
松石氏

―スターフライヤーにとって初の沖縄定期路線です。

松石　7月4日に北九州―那覇線を夏季限定で新規就航した。北九州発の往復をメーンに、10月まで搭乗率7割以上を目指している。顧問として入社した14年当時は赤字を抱えていたが、社員の頑張りで立て直した。同じことを繰り返さないため、沖縄就航も十分検討した。決めた以上は育てていく。できれば通年化、次に1日2往復にしたい。

―第一交通産業は沖縄に展開しています。

田中　約14年前に経営が厳しくなったタクシー会社の旧那覇交通、その1年後には同様に旧琉球バスの事業を引き受けた。現在は沖縄でバス・タクシー7社、タクシー約270台、バス約600台がある。沖縄本島でのシェアは観光・路線バスの73％。従業員1600人、売上高100億円強の規模にまでなった。

―沖縄の観光は好調のようですね。

東　16年度入域観光客数は国内客664万人、インバウンドは212万人。6月時点で前年同月を57カ月連続で上回る。景気予想も「晴れ」「快晴」の予測が出ている。第5次沖縄県観光振興基本計画では審議会の会長を務めたが、中間改定で21年度目標を1000万人から1200万人に、観光収入も1兆円から1兆1000億円に上方修正した。

―目標を上方修正する状況なのですね。

東　20年には那覇空港の第2滑走路が完成する。滑走路容量がもう限界なので、今後約3年間は伸び率がスローになると思う。県も民間も20年に向けた質の転換への準備の時期と考えている。

―その中でスターフライヤーの狙いは。

松石　16年12月に10機体制となり、機材に余裕がある時期ができた。北九州はビジネス路線がほとんどでプレジャー路線は初めてだ。しかし、地元北九州の方が沖縄への直行便復活を望んでおり、かつ北九州の大学に進学している学生も多い。現状は10月までの限定運航だが、冬場、特にスポーツキャンプで沖縄への移動が増える2月、3月に飛ばしたい。ただ、これまで2社が撤退した路線でもあるので慎重に進める。

―第一交通として沖縄への期待は。

田中　参入時は観光客がこんなに一気に増えると思わなかった。那覇の「カフーナ旭橋C街区」オフィス棟は当社が再開発した。隣のA街区にはバスターミナルを建設中だ。延伸するモノレールの新駅「てだこ浦西駅」では住宅事業を進める。外国人などいろんな人がマンションを投資用に買っている。昔のホノルルのよう。沖縄は平均年齢も若く伸びる地域だ。

―好況の一方で沖縄には課題もあります。

東　当社はレンタカー利用者を含め年間約43万人のインバウンドを受け入れている。伸び盛りで北海道や瀬戸内地区へも送客している。伸びるのはうれしいが、インフラ整備がソフト・ハードともに遅れ、顧客満足度に響いている。クルーズで年間70万人が入域するが港湾整備が追いつかず、貨物バースに寄港する状況も。バスも慢性的に足りない。時には荒天で船が接岸できず、待機していても稼働しないこともある。

―全国最悪とされる渋滞もあります。

田中　渋滞の発端は20年ほど前に公共交通が機能せず自家用車が増えたこと。内閣府沖縄総合事務局とレンタカー・タクシー業界、バスも含めて渋滞緩和とインフラ整備を考えている。すべてが那覇起点になっていることが要因。船やヘリも含めて、交通をどう分散化するか検討中だ。

―空の面では。

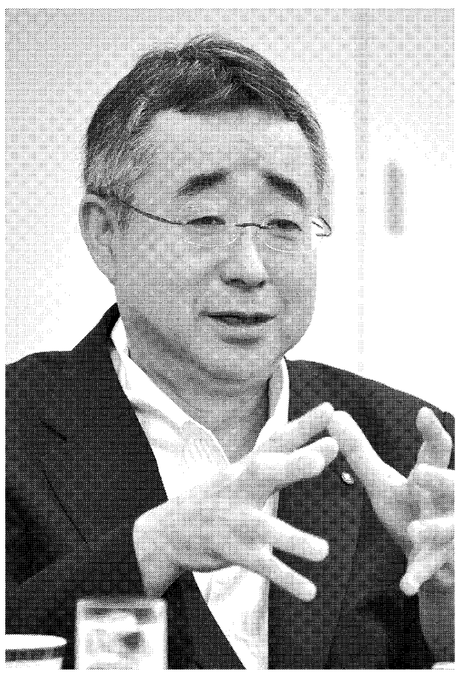
松石　那覇空港の滑走路混雑で、管制の指示により北九州から定刻で出発できないことがある。そのため第2滑走路には期待している。また、当社の沖縄発便は時刻が少し早いが、1日2便化できれば遅い便をつくって使いやすくなる。そこまで頑張りたい。

―北九州への送客はどう進めますか。

松石　行政とも組み、当社が北九州の魅力を紹介する。また、沖縄への送客面からも、大分や山口といった北九州近隣の市の方に、福岡でなく北九州空港を利用いただきたい。例えば大分―那覇路線はどこも運航しておらず、別府などにお住まいの方は福岡経由で行っている。山口にも新幹線を使って福岡を経由していると聞いている。東九州道の全線開通もあり、利便性をアピールしたい。

―東会長から見て北九州線の生かし方は。

路線拡大、サービス強化
観光のさらなる飛躍へ



第一交通産業　田中氏

【企業概要】本社・北九州市小倉北区、1960年設立。34都道府県で車両9000台、乗務員1万5000人を抱える国内最大級のタクシーグループ。グループ売上高は約1000億円。旅客運送業のほか不動産事業など多角的に展開。

バス、タクシーの価値向上
地域に利益ある構造を
田中氏

東　沖縄には大きな山も桜も紅葉もなく、神社仏閣も温泉も少ない。沖縄の人とアジアの人が好きなものは似ており感覚がわかる。さわやかさや冷涼さ、緑、せせらぎなどに憧れるはず。ネットを使う若者たちがトレンドをつくる。会員制交流サイト（SNS）やブログで魅力を全国に発信することが重要。旅行会社も努力するが、何がブレークするかわからない。北九州のモノづくりを生かしたITによる集客、人工知能やロボットが企画した旅行も面白い。

―田中社長は観光協会の会長なども務められました。

田中　関門（山口・下関と門司エリア）と博多の中心であり、東京にも行きやすいことが地の利。響灘の港湾、空港の整備も進む。関門海峡や平尾台のカルスト、祭りや出身有名人など特徴的なものも多い。街なかには韓国と台湾の若い女性観光客が増えた。モノづくりだけでなく、おもてなしの部分でも実績をあげつつある。同規模都市に比べると元気だ。インバウンドを34万人から、なんとか100万人にしたい。

―MICEにも力を入れています。

田中　3年前からMICEやフィルムコミッションがかなり有名になった。4月に北九州観光コンベンション協会を設立、関係団体を統合した。市や商工会と大部屋で情報やスケジュールを共有し、一体的にイベント運営している。イベントのポテンシャルは高い。

―20年には東京五輪も開催され、観光関連産業も拡大に動きます。各社の展望を。

松石　13年度にプサン線をやっていた。中期経営戦略で20年度の国際線再参入を目指すが、18年末に前倒し、20年度までに軌道に乗せたい。就航先はまだ検討段階。海外格安航空会社（LCC）に負けてなるものかと、小さな会社だが頭を使い、アイデアを出して他社と同じでなく〝SFJらしさ〟を追求していく。無料の初日の出フライトのように「何かやってくれる」というお客さまからの期待を裏切らないようにしたい。地元から求められることは路線を張り、便数を増やすこと。一歩ずつだが着実に成長していきたい。

田中　20年はピークでなくスタート。沖縄ではガイドや運転手の観光教育、研修により内容も充実させる。新ターミナルには多言語対応の観光センターをつくる。個人旅行を手配するコンシェルジュ人材も育成中。同時に給与や設備投資を通じて、地元にお金が落ちる仕組みをつくる。観光客は多いのに沖縄の観光は安いと思われているのが悔しい。タクシー料金も運賃改定が遅れている。値上げとサービスの質を上げる必要がある。

沖縄ツーリスト　東氏

【企業概要】本社・那覇市、1958年設立。旅行会社として札幌から福岡まで展開。東京、大阪を中心に沖縄へ年間40万人を送客する。20年前から訪日観光に取り組み、海外4カ国に現地法人を持つ。レンタカー事業なども運営。

IT駆使、海外発信と
“外外”観光の産業化重要
東氏

東　インバウンドに関しては旅行会社はIT企業に近づく。テクノロジーを駆使した海外発信が重要になる。当社予約センターの社員は台北に20人、韓国に15人いる。9月から観光の輸出という形で、韓国・台湾・香港・中国の顧客向けに、ニュージーランドでレンタカーサービスを始める。セルフドライブの旅をアジアの人に販売する。「外外」を考え、日本市場が飽和しても売る商品を持っておかないといけない。旅行観光産業の次の部分だ。そこを勉強する。

―本日はありがとうございました。

新しい空、　新しい私。
北九州空港
KITAKYUSHU AIRPORT
早朝から深夜まで
東京（羽田）線、名古屋（小牧）線、沖縄（那覇）線[夏季]
中国（大連）線、韓国（釜山・仁川）線
運航中!
北九州エアターミナル株式会社
〒800-0306 北九州市小倉南区空港北町6番
Tel.093-475-4195　Fax.093-475-1304　http://www.kitakyu-air.jp/

welcome
NAHA AIRPORT BUILDING
那覇空港ビルディング株式会社
代表取締役社長 兼島　規
〒901-0142 沖縄県那覇市字鏡水150番地
インフォメーション 098-840-1179
http://www.naha-airport.co.jp

STARFLYER
今年の夏はスターフライヤーで沖縄へ!
北九州⇔那覇
夏季限定新規就航 1日1往復2便
運航期間：2017年7月4日（火）～10月10日（火）
SFJ19　北九州発 9:30 ⇒ 那覇着 11:15
SFJ18　那覇発 12:00 ⇒ 北九州着 13:40
KITAKYUSHU
NAHA
SF CALL CENTER（予約・案内センター）0570-07-3200（7:00～23:00 年中無休）
■PHS/IP電話からは 北九州：093-512-7320　東京・大阪：050-3822-1489
▼スターフライヤー ホームページ　スターフライヤー　検索

OTS RENT-A-CAR
NEW ZEALAND
September 2017 OPEN
QUEENSTOWN

北海道から沖縄まで全国をネットワークする第一交通産業グループ
北九州エリア
■マンション（パレスシリーズ）　■戸建住宅（第一ホーム）
DAIICHIプレミアムタクシー 北九州地区 配車センター ☎093-521-3216
■サービス付高齢者向け住宅　■上質な乗り心地と満足感をお届けします
Uomachi Hikari Terrace
ウオマチヒカリテラス　検索
魚町にヒカリをテラス。
魚町銀天街に“カジュアル”と“賑やか”をテーマにした食の発信地が誕生しました。ここでしか出会えない、これからの食文化を発信します。
沖縄エリア
地域の新しい交通拠点「那覇バスターミナル」平成30年 秋完成（予定）
那覇バス　琉球バス交通
グランドパレス マリンコート西原　那覇市カフーナC街区
タクシーを中心に広がる、さまざまな事業。
●タクシー事業　●バス事業　●マンション分譲事業　●戸建分譲事業　●不動産賃貸事業　●自動車整備事業
●ファイナンス事業　●パーキング事業　●介護サービス事業　●ゴルフ練習場　●ソフト開発事業　●通信販売事業 etc.
総合生活産業
第一交通産業グループ　DAIICHI
http://www.daiichi-koutsu.co.jp/